

## 特集

### シタラフェア

#### 「地デジカ」騒動

## シタラフェア

去る5月15～16日、高崎問屋町センターにおいて、毎年恒例の設楽印刷機材展・シタラフェアが開催されました。

毎年ステージ前に置かれる大型機械が展示会の花形ですが、今回はヨービのRYOB I920・LED-UVシステムがそれでした。機械自体はA全版の平版印刷機ですが、最大の特徴はその独自の乾燥システムにあります。

「UV」の名が示すとおりこの機械はUVインキを使うわけですが、通常のUV機は、紫外線を照射し瞬時に乾燥させます。しかしこの紫外線照射が実に800もの温度になるので、例えば両面印刷などの場合は、紙が熱で伸びるので暫く冷まさねばなりませんでした。つまりインキが乾燥していてもすぐには次の作業に移れなかったわけです。

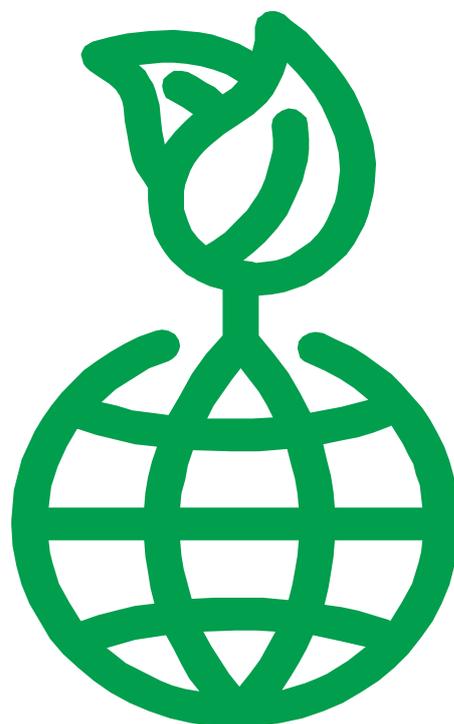
そこをこの機械は完全に解消したので、東洋インキが開発した独自のUVインキを使い、青色LEDによって瞬時に乾燥させるシステムです。青色LEDは熱をほとんど発生しません。これにより、タイムラグ無く次の作業に取り掛かれます。

また、インキが瞬間乾燥なので、パウダーが不要で、ブランケット清掃の手間や、印刷物から粉が吹くクレームも抑えられます。

さらに青色LEDは寿命も長く、消費電力も少ないのでランニングコストの低下も期待できます。実際、昨年のDRUPAで発表され、大変好評だったようです。

ほかに珍しいものとしては「ナビトーク」が挙げられます。これは印刷物に特殊なコードを刷り込み、専用の機械でそれを読み取ることにより数ヶ国語の音声ガイドが得られるというスグレモノです。以前、都市の中の案内板等にコードを貼り付け、それを携帯電話などで読み取ることにより音声ガイドを得る「都市ユビキタス構想」というのがありましたが、これはそれを進化発展させたものといえましょう。今年ご開帳で賑わう、善光寺の案内パンフレットなどに既に採用されております。

後者などはまさに、一昔前のSFに出てくるような便利アイテムですね。こんな身近に「未来」が体験できるイベントは、そう多くはありません。ほかの展示会ともども、これからも目が離せない催しになるのは間違いありません。



スギウラ株式会社  
営業部 営業一課  
〒370-0006  
高崎市問屋町 2-2-8

電話番号  
代 表  
027-361-5808  
営業一課  
027-361-5734

Fax  
027-361-1272

当社 Web サイト  
[www.kamisugiura.co.jp](http://www.kamisugiura.co.jp)

お気付きの点や質問、  
疑問などありましたら、  
ご遠慮なく営業または、  
下記までお問合せくだ  
さい。

お問合せ  
メールアドレス  
sg-arai-yoshio  
@kamisugiura.co.jp

## 「地デジカ」騒動（前編）

テレビの地上波アナログ放送は平成22年7月に終了し、デジタル放送に完全移行する予定となっております。これにより主に受け取るだけだったTVからの情報が、こちらからも発信できるようになる、という触れ込みです。ほかにも画面の解像度向上とか、いろいろ変化はあるようですが、今回はそういう話ではありません。

こういう大々的な変化を行う場合は、イメージキャラなどを設定して認知度を高めるのが一般的なやり方です。今回も例に漏れず、その手法が採られました。そこで白羽の矢が立ったのがSMA Pの草薙剛氏でした。しかし草薙氏をご存知の通り……。それを受け総務相が彼を「最低の人間」と罵ったり、すぐさまそれを撤回したりといろいろありましたが、そのあと登場したのが表

題の「地デジカ」でした。

もうTVでの露出も増えてきたのでどんなキャラクターかはお存知の方も多いかと思われそうですが、一応説明しますと、2本足で直立する鹿が、角から電波を発信しつつ、何故かレオタード調の服を着ている……。という、いわゆる「ゆるキャラ」です。デザインがあまりに簡素なので、やっつけで作ったキャラのように見えて、実は結構前から用意されていたらしい、制作フジTV社員のキャラクターです。

ともあれこのキャラを前面に押し出して、再び地デジのCMが再開されました。そこでちょっかいを出してきたのが、物見高いネットユーザーたち（主に2ちゃんねらー）でした。彼らはすぐさま同キャラクターを人間キャラにしてみたり（擬人化）、キャラを使った漫画をネット上で公開したりし始めました。

そしてこれに怒ったのが、著作権者である日本民間放送連盟（民放連）です。民放連は無断使用を「断固として許さない」と強硬姿勢に出ました。確かに、2次創作やパロディキャラのほうが本家より人気が出てしまったら本末転倒です。またキャラを作った立場からも、著作権上かなりグレーゾーンであるものに対して黙っているのは、今後のことを考えてもあまり良い影響は無いかもしれせん。

しかしネットユーザーたちも黙ってはいません。すぐさま、主に2ちゃんねる上で反論し始めました。曰く、ある程度泳がせたり、黙認するなどしてキャラの知名度向上に努めるべきだ、とか、パロディ番組ばかり作ったりして行くせに人がやるのは許せないのか、とかそういった内容です。

確かに両方の言い分にそれぞれ一理ある気がします。そしてさらに取ったネットユーザーたちの行動とは……。

（続く）



